

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	健康寿命の延伸に有効な活動とその限界に関する探索的研究				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・教授	氏名	松井 順子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・准教授	氏名	奥田 都子
		所属・職名	短期大学部社会福祉学科・准教授	氏名	尾崎 剛志
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・教授	氏名	松井 順子

講演題目
健康寿命延伸に向けた静岡県と山梨県の事業特徴と地域社会の取り組み事例に関する報告 - 時代の変化に応じた形に変容できる地域社会の賢明さと柔軟性の究明を中心にして -
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>1. 研究目的</p> <p>2012年の健康寿命・初算定以降、その優等生である静岡県は、県内各市町が健康寿命延伸に向けて独自の取り組みを進めているが、平均寿命で県内各地を比較すると、県西部は総体的に好成績を収めているが、県東部、特に伊豆半島は低空飛行が続いている。その理由は地形に依るのか、各地の取り組みの違いによるのだろうか、究明を試みる。次に、健康寿命のトップクラスを走り続ける山梨県は、森林面積が広く冬の自然環境が厳しい地域であるが、なぜ、山梨県は健康寿命の優等生であり続けられるのか。その要因究明は医学・食品系の研究が主であるが、本研究は、社会参加・社会関係資本に着目して、「人と人とのつながりの在り様やそれを包含する地域の特性・仕組み・慣習は健康寿命の延伸に寄与する」と仮定し、山梨県内、及び、静岡県内各市町が健康寿命延伸に取り組んでいる事業とその具体的内容、並びに、実際に地域で活動している高齢者の方たちにヒヤリング調査を行い、先に仮定した要因に関する質的量的データを集め、実施主体と運営主体の双方からみた事業運用と個々の地域特性に応じた発展的展開と課題を明らかにすることを通じて、健康寿命延伸の一助を目指す。</p> <p>2. 成果と今後の展望</p> <p>研究成果について、静岡市3区の社会福祉協議会・住民参加型ディサービスの担当職員に各区の事業の成り立ちや、これまでの展開と現状等についてヒヤリング調査を行い、テキストマイニングによる分析で、各区の事業像と市の事業全体像を描いたところ、同じ事業でありながら、区が異なれば事業特徴も異なる結果であった。同サービスは市内272箇所で開催されていることを根拠に、地域特性に応じた事業を進めたことが拡大要因の一つではないかと、みなしている。次に、担い手のボランティアの方たちを対象に3区でグループインタビューを行い、各区の活動成果とその差異の究明を進めている。更に、伊豆半島での調査では、住民間の交流は古い共同体的関係性が残っていること等から、新しい活動の導入には一定の抵抗があることと、健康寿命という概念が住民に十分浸透していない課題がある。山梨県では「無尽」というかつての民間金融の集まりが、人が定期的に集う場の名称として用いられ続け、ソーシャルキャピタルの機能を維持する役割を果たしていることや、果樹生産等による高齢者の就労促進、住民間・無尽のメンバー間での刺激が有機的に機能しているようである。</p> <p>一連の結果から「時代の変化に応じた形に変容できる地域社会の賢明さと柔軟性が健康寿命の延伸に寄与する」という仮定を今後も研究の柱に据え、仮説検証を進めることが今後の展望である。</p>